

# 西田裕紀の あの農場はこうして 採用に成功した

## 第10回



(株)Life Lab  
(ライフラボ)

西田 裕紀  
Hironori Nishida

1978年愛知県生まれ。2005年に会社を設立し、翌年農業法人を中心とする一次産業の求人サイト「第一次産業ネット」をオープン。同サイトの会員（求職者）数は2万人。就職実績は年1000件を誇る。外国人技能実習生の受入れを担う、アジアアグリ協同組合代表理事も務める。<http://www.life-lab.co.jp/>

## 求人広告の裏ワザ

今回は、ちょっとした工夫で簡単にできる「求人広告で他社求人と差別化する方法」をお伝えします。この方法は、求人原稿を出稿している媒体に同地域や同業種が多く、自求人埋もれてしまう場合や、応募数が今ひとつ伸びずに悩んでいる農場におすすです。

ひとつは、「免許の有無」を条件に入れるかどうかです。これは一番効果が高く、可能であれば試す価値大の方法です。農業分野での求人では、現場で車を運転する場合も多く、必須条件に免許（軽トラの運転が多

すが、たとえば採用後に近所の教習所に通い取得するという選択肢も考えられるでしょう。例として、施設栽培でトマトなどを栽培するある農場では、夏場のハウス内が暑いため休憩時間としている昼間を、スタッフが教習所に通う時間に充てています。仕事外の時間で効率的に免許を取得できるのであれば初めは持つていなくて良いと経営者が考えているのです。

また、教習所の費用を会社で一時的に立て替えている農場もあります。給与から分割で立て替えた分を

イントを「手取り額から家賃を除いた額がどれくらいあるのか」ということにシフトさせてしまうのです。寮を完備している農場もあるでしょうし、寮はなくても東京や大阪などの都市圏などと比べて農場付近の家賃は安くすみます。都市部で25万円の給与をもらうより、農業で得る18万円の給与の方が、実際に自由に使える金額としては多いというケースも多々あります。また、農業らしい福利厚生として、農産物を支給している農場もあります。

額面では都市部の会社と比べると

いため、マニュアル免許必須が多いを入れている農場が多いのが現状です。しかし、農業を志す若者で、都会から応募するような方は免許を持つていないという方も多く、また、近年では免許は持っているも、AT限定免許のみであるケースが多いのが現状です。

そこで、「免許無しOK」と条件面に記載して求人を出すことにより、今まで免許の条件をクリアできず応募できなかった求職者を貴社へ取り込むことが可能となります。「免許を持っていないと、困るよねえ」という声が聞こえてきそうで

差し引けば、スタッフの負担も減らせるため、より免許取得が容易になります。このように、免許を条件から外すことで、これまでより対象者がぐんと広がります。

もうひとつは、求人掲載の際に一番質問が多い「給与」についての見せ方の工夫です。給与額に関しては、各農場で基準があるのでしようし、給与額を他社と比較して上下させてしまうことはおすすしません。近隣の農場で給与額を争うと、自分で自分の首を絞める結果が待っています。

そこで、給与面でアピールするボ

劣っていても、自由に使えるお金の額をアピールすることで他業種から人材を呼び込み、さらに寮や独自の福利厚生などによる金銭的なメリットをアピールすることで、同地域の他業種や他農場との差別化が可能になってきます。

免許の有無や給与の見せ方というのは、求人原稿のごく一部に過ぎませんが、求職者の方々は意外と細かいところまでしっかりと見ているのです。他求人と迷っている場合などは、条件や金額面が最終的な判断材料となることもありますので、試してみる価値はあるでしょう。